

りんご栽培情報第2号

令和2年4月14日
氷見市りんご組合版
富山県高岡農林振興センター

■ 1 概 況

富山県園芸研究所果樹研究センターによる、「ふじ」の開花始めは4月19～20日頃（前年4月23日、平年4月23日頃）の見込みです。摘花・摘果作業は遅れないように適期に行いましょう。

■ 2 今後の病害虫防除

今後の防除については下表を目安に実施してください。

回数	時 期	対象病害虫	散布薬剤名	希釈倍数	10a 当 散布量	100㎡当 必要薬剤(g, cc)	防除実施日 (自己記入)
4	4月23～ 25日頃 (落花後)	黒星病、赤星病、黒点病 ハマキムシ類、ケムシ類 展着剤	テーク水和剤 アタブロンSC マイリノー	600倍 3,000倍 20,000倍	500ℓ	166g 33cc 5cc	月 日
5	5月3～ 5日頃	黒星病、斑点落葉病、褐斑病 赤星病、黒点病、炭疽病、輪紋病 表皮障害防止 展着剤	ユニックス顆粒水和剤47 トレノックスフロアブル クレフノン マイリノー	2,000倍 500倍 100倍 20,000倍	500ℓ	50g 200cc 1kg 5cc	月 日
6	5月13～ 15日頃	黒星病、炭疽病、斑点落葉病、輪紋病 黒点病、赤星病、炭疽病、輪紋病 赤衣病 アブラムシ類、キンモンホガ 表皮障害防止 展着剤	※ { デランフロアブル 注 { トレノックスフロアブル ポリオキシンAL水和剤 サイアノックス水和剤 クレフノン マイリノー	1,000倍 500倍 1,000倍 1,000倍 100倍 20,000倍	500ℓ	100cc 200cc 100g 100g 1kg 5cc	月 日

※注 デランフロアブルが入手できない場合は代替薬剤のトレノックスフロアブルを使用する。

* 黒星病・黒点病の重点防除時期です。防除間隔が空きすぎないように留意する。

ただし、開花～開花盛期の防除は避ける。

* 防除はていねいに散布しかけムラがないようにする。

* 雨天続きで散布間隔が長くなりそうな場合は防除を前倒して行う。

■ 3 DMI 剤耐性の黒星病について

青森県ではりんご黒星病の基幹防除薬剤（DMI 剤）が効かない耐性菌が確認され、大きな問題となっています。りんごの葉に黒星病斑（写真1、2）を確認されましたら、富山県高岡農林振興センター園芸振興班（☎26-8476）までご連絡ください。



写真1 葉での初期病斑（黒い斑点）



写真2 葉での病斑（病斑部が隆起）

■ 4 「陽光」の小袋かけ

- ・「陽光」は尻サビの発生が多いため、小袋をかけ尻サビの発生を軽減しましょう。
- ・時期：結実が確認できたら直ちに摘果を行い、小袋かけを実施して下さい。
- ・方法：摘果では必ず中心果を残し、最終着果量の3割増し程度とします。
- ・除袋：小袋は実が大きくなると自然に破けますが、果実の着色に影響するので除袋してください(写真3)。



写真3 果実の肥大により破袋した小袋

■ 5 二年枝のえき花芽の摘花について

- ・二年枝(昨年伸びた枝)のえき花芽(写真4)は、来年の花芽を充実させるため、摘み取ります。
- ・「こうたろう」等の、えき花芽が多い品種は早めに摘み取って下さい。



写真4 二年枝(前年伸長した枝)のえき花芽

■ 6 予備摘果について 予備摘果は5月20日頃を目途に終了する

・時期

ガク立ち確認次第(受粉後7~10日後)実施します(写真5)。

中心果を残して1果そう1果にして下さい。小さな果実は大玉果として期待できないため、中心果であってもすべて摘果します。

・終了目標

満開30日後頃までに終了して下さい。「ふじ」は5月20日頃までに終えて下さい。

・注意点

中心果が実止まりしなかった「ふじ」は形が良く大きい側果を残します。

「つがる」、「さんさ」、「王林」、「秋映」等の品種は、側果を残すとサビ果が発生するので中心果だけを残します。



写真5 「ふじ」の中心果のガク立ち

■ 7 土壌水分の管理について

- ・排水不良園では額縁排水路や明きよを設置し、排水性の改善を図りましょう。また、降雨が少なく土壌が乾燥する場合は積極的にかん水を行ってください。